



会計年度任用職員の処遇考察

2023年4月26日、会計年度任用職員の勤勉手当の支給を可能とする地方自治法等の改正が参議院本会議で可決となった。早ければ2024年度4月にも勤勉手当の支給が可能となる。

太田市役所では今年度から会計年度任用職員の給与が行政職棒級表(一)1級1号(150,100円)から1級18号(171,200円)へと大幅なベースアップが行われたばかりだが、勤勉手当の支給が決定すれば、官製ワーキングプアと揶揄された会計年度任用職員も魅力的な待遇に生まれ変わる。民間の正規社員といえば聞こえはいいが、給与や労働環境においては事業者によってバラバラである。1級18号の初任給であれば、地域手当3%を含めると176,336円となり、一部の民間企業よりも魅力的に映る。

従来、自治労では会計年度任用職員の初任給を高卒初任給

程度の引き上げを求めてきた。太田市役所では国の1級5号よりも高卒初任給の待遇が良く、1級8号(157,900円)から始まる。この1級8号(157,900円)と比較しても10号高い初任給が会計年度任用職員は設定されており、高卒・大卒の人がアルバイトで働くよりも十分に魅力を感じる。

加えて昨年10月から導入された社会保険の変更により、群馬県市町村職員共済組合の適用を受けることができ、正規職員と同等の福利厚生を享受することができる。例えば病院で1件当たり自己負担額が25,000円(一般所得区分)を超えたときは一部負担金払戻金として付加給付される。

最後に今回の改正により、各自治体が条例改正をすることで勤勉手当の支給が可能になる。太田市職労としては令和6年度の適用に向けて労使交渉をしていきたい。

太田市職労、群馬県大会2連覇 大会無失点で実力見せる …関東大会出場へ



5月19日(金)、第45回全日本自治体職員等スポーツ選手権大会の準決・決勝の2試合が高崎市城南球場にて行われ、太田市職労(太田市役所軟式野球部)が伊勢崎市職労を3-0で下して優勝を果たし、8月に東京都で行われる関東甲地区大会の出場を決めた。

太田市職労は、初戦となる南牧村を5-0で下し、準々決勝の安中市戦は相手の棄権により準決勝へ進出を決めていた。

準決勝は前橋市職労戦。太田市職労は初回から順調に得点を重ね、毎回得点により終始有利に試合を運んだ。最終回には上原(市街地整備課)によるダメ押しのサヨナラツーランHRによりノックアウト。投手陣の好投も後押しし、終わってみれば11-0の5回コールドで勝利。相手を寄せ付けることなく決勝戦へ駒を進めた。

決勝は伊勢崎市職労戦。伊勢崎市職労は、強豪高崎市職労を準々決勝で破ったほか、直前の準決勝にて富岡市職労を僅差で破るなど勝負強さを発揮。勢いそのままに決勝に臨んでいた。試合は先発投手の清水(太田市勤労者福祉サービスセンター)が130km/h台後半の速球と変化球を織り交ぜた投球で相手をセーブ。立ち上がりは両チームとも相手投手を攻略することができず、無得点が続く。均衡が破られたのは5回裏、太田市職労は相手投手交代のタイミングで死球と送りバントで二塁まで進んだランナーを二番の横堀(スポーツ振
(ウラ面へつづく)

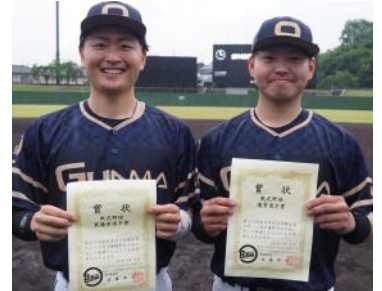
(つづき)

興課・令和5年度入職)が犠牲打で返して貴重な一点をもぎ取る。6回表には相手に三塁まで進塁されるなど危うい場面もあったが、先発の清水を中心に好守で抑えて本塁を踏ませない。7回裏には相手守備の綻びを鋭く突きながら、送りバントで二塁まで進んだランナーを返すなどして2点を追加。試合を決定づけた。その後は7回から交代した宮下(スポーツ振興課)が先発の好投を引き継ぐ形で無失点で抑えて守り

抜き、3-0で勝利。2連覇を勝ち取った。

大会最優秀選手賞は決勝にて決勝点を挙げた横堀、優秀選手賞は準決勝・決勝にわたり巧打で活躍した田村(花と緑の課)がそれぞれ受賞した。

太田市職労は群馬県代表として東京都で開催される関東甲地区大会(交流戦)に出場予定(8月中旬頃開催予定)。活躍が期待される。



連合群馬ふれあいフェスティバル in おおたに参加してきました

5月21日(日)、八王子山公園(太田北部運動公園)にて連合群馬ふれあいフェスティバル in おおたが開催された。同催しは労働者が権利を主張する5月のメーデーの代わりに開催されるものであり、新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった昨年に引き続き2年連続の開催となる。当日は天候にも恵まれ、五月晴れの空の下、多くの来場者がイベントに訪れていた。

太田市職労は太田市役所eスポーツ部協力のもと、eスポーツ体験をブースで出店。専用コントローラを用いてサーキットレースを体験できるブースでは子供たちを中心に大いに賑

わった。

同部部員でもある高橋書記次長は「太田市に馴染みのあるSUBARU車に限定したサーキットレース(eモータースポーツ)イベントということもあり、親御さんが足を止めてお子さんにプレイを勧める場面を多く見かけました。最初は操作に戸惑う子も多かったですが、周回を重ねると操作にも慣れ、大人顔負けの運転をし始める子も多くいらっしゃいました。eモータースポーツは操作が現実の車の運転に近いのでプレイがしやすい事もあり、老若男女問わず楽しんでいただけることを改めて実感しました。」と振り返った。

